

しし座流星群の活動 (2016-2020)

下田 力

ゆるい報告になります。

2020年11月11/12の観測を集計していて、極大の1週間前にもかかわらずいぶんしし群が多いなと感じました。しし群の母彗星であるテンペル・タットル彗星は遠日点を通過し再び太陽に向かってきています。この機会に最近の活動をまとめてみます。

1. 解析方法

SonotaCo ネットのデータから活動を議論することはなかなか難しいところがあります。観測機材の多様性、各観測点の気象条件など、客観的な活動を議論するにはハードルが高いと思います。今回思い切って、各夜のすべての同時流星数に対するしし群の同時流星数の割合をグラフ化してみました。データの確度を示すために総流星数を丸の面積で示してあります。丸が大きければ同時観測となった総流星が多く、広い範囲で天候に恵まれたことを示しています。

2. 解析結果

- ・ 11月12日付近 ($L_s=230$) にはやはり何らかの活動が認められ、2016~2018年に比べて2019, 2020年は出現数が増加しているように見える。
- ・ 11月21日早朝 ($L_s=238.5$) 古いダストトレイルに当たる可能性(佐藤幹哉)[※]に関しては、天候不順で十分な観測量がないため何とも言えないが、顕著な増加は認められなかった。

※) 1234年放出 11/21 00:28JST +0.00035au fM:0.0018 放出速度+9.27m/s (NMS 同報 11/21 佐藤幹哉)

3. まとめ

テンペル・タットル彗星が遠方にあっても、しし座流星群は存在感のある流星群であるとあらためて認識しました。

